



# SIP自動運転（システムとサービスの拡張）

adus ; Automated driving system for universal service

葛巻 清吾

SIP-adus プログラムディレクター

2023年3月16日

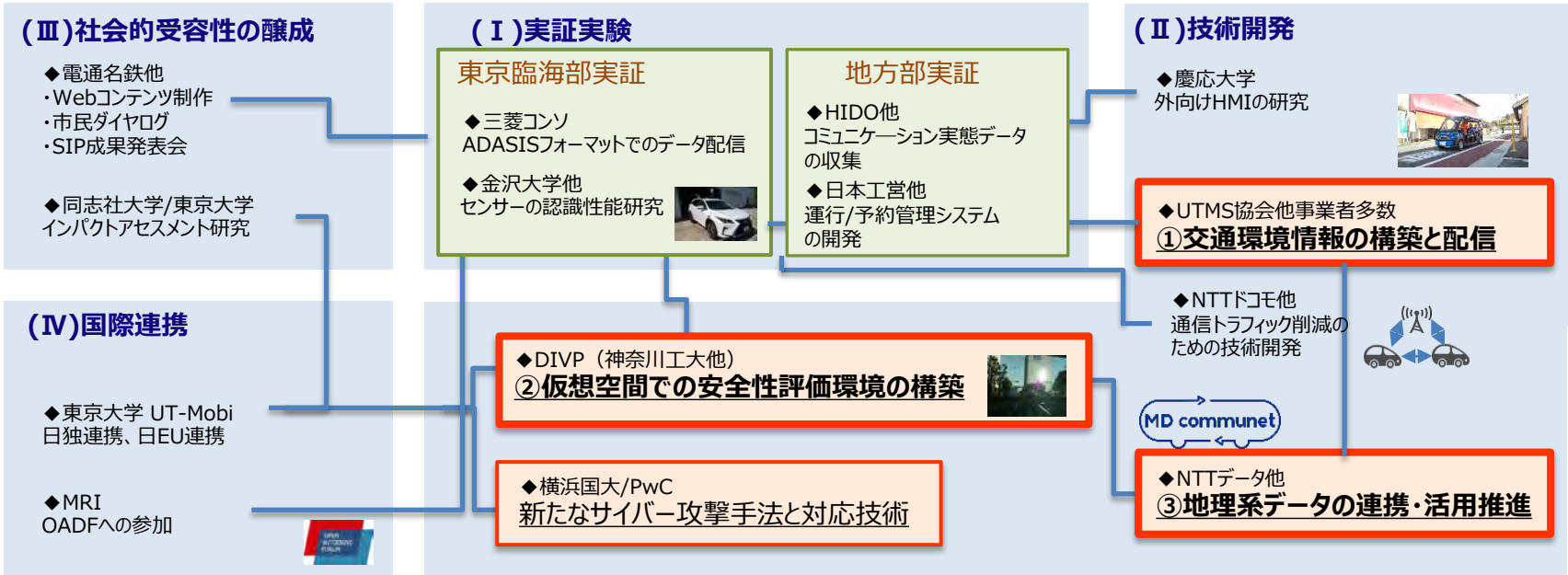
# 全体総括

## 《まとめ》

「官民ITS・構想ロードマップ」（デジタル庁）に基づき、自動運転の早期実現に向け協調領域の技術開発を産学官連携で推進。SIP5か年を3年+2年に分け、21・22年度は下記4テーマを重点に事業化・実用化に取り組み、目標を達成できた。

## 《SIP第2期 主な研究テーマ》

（本日は下記①～③を報告）



重点取り組みテーマ

# 交通環境情報の構築と配信

## 【成果】

- 協調型自動運転の実現に向け、高精度3次元地図に紐づく動的な交通環境情報の構築と配信に取り組み、V2Xによる情報配信のアーキテクチャを関係者と合意するとともに解決すべき課題をロードマップに落とし込んだ。



### 動的情報

ITS先読み情報  
(周辺車両、歩行者情報信号情報など)

### 準動的情報

事故情報、渋滞情報、狭域気象情報など

### 準静的情報

交通規制予定情報、道路工事予定情報、  
広域気象予報情報など

### 静的情報

=高精度3次元地図情報  
路面情報、車線情報、3次元構造物など

・V2Iによる信号情報配信は自動運転に活用するための仕様を合意し、**RoAD to the L4(経産省)へ展開**

また、お台場の本信号情報配信インフラについては、次期SIP「スマートモビリティプラットフォームの構築」でも**開発拠点として活用予定**

・V2Nによる信号情報、緊急車両、車線別道路交通情報等については将来のデータ集約・生成・配信のアーキテクチャを関係者と合意

## 【通信方式】

協調型自動運転  
通信方式  
ロードマップの策定



・新たな通信  
周波数の確保  
(総務省)

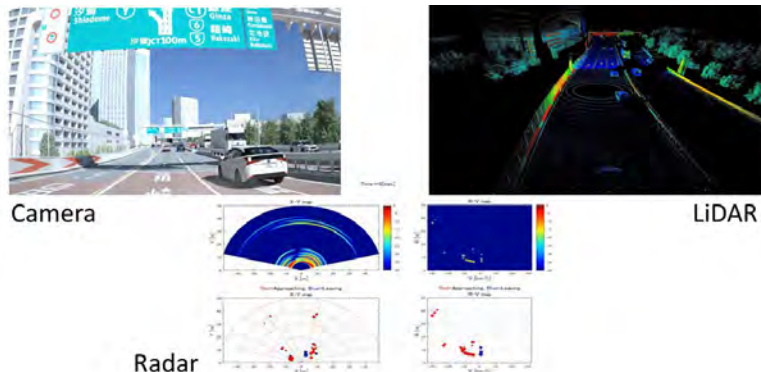
・新たな通信  
方式の課題解決  
(ICT業界・  
自動車業界)

## 【V2N実用化】

・SIP終了後は、関係省庁(警察庁、国土交通省道路局)やVICS、JARTIC、民間企業(OEM等)と社会実装に向けた検討会を設置し推進することで合意

# 仮想空間での安全性評価環境の構築

【成果】 ▶ 様々な交通環境下で再現性の高い安全性評価を行うため、リアル環境における実験評価と代替可能な**実現象と一致性の高いシミュレーションモデル**を開発



・カメラ、Radar、LiDARともに評価結果の精度高く、かつシナリオ生成⇒認識性能評価⇒車両制御検証が**一気通貫で可能なプラットフォーム**であり、ユーザーから好評価

・**日独連携**等の枠組みを活用して、ASAMに対し標準仕様を提言するなど**国際標準化にも貢献**



DIVEP® 研究コンソーシアム

## 【事業化】

新会社 **V-Drive Technologies**  
2022年7月1日に設立（BIPROGY100%出資）

今年度 DIVEP®シミュレーションを  
**3社に販売済**、10数社が導入検討中。  
6月には**クラウド環境でのサービス提供を開始**予定。



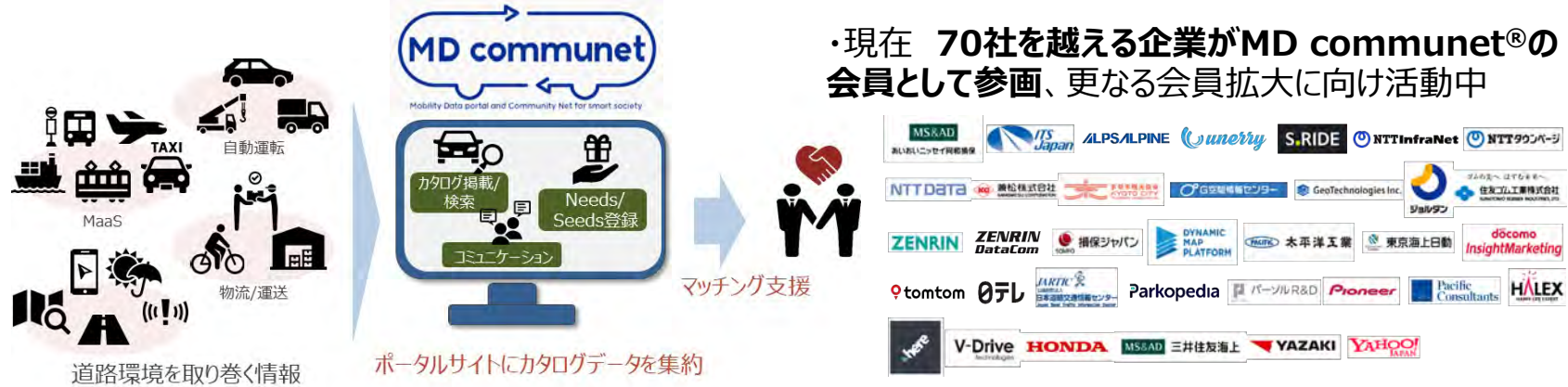
## 【今後】

- ▶ 安全性評価手法の構築に向け、DIVEPコンソーシアムはJAMAと連携しつつ、**経産省のSAKURAプロジェクトと合同で研究開発を継続**
- ▶ **VIVID（日独連携）、ASAM（標準化団体）、IIHS（米国アセスメント）**と組みグローバル標準化を加速



# 地理系データの連携・活用推進

【成果】 ▶ モビリティ分野関連のデータを一元的に集約した、ビジネス創出のためのビジネスマッチングサイトを構築



・現在 70社を越える企業がMD communit®の会員として参画、更なる会員拡大に向け活動中

## 【事業化】

・SIP第2期終了後も、NTTデータがMD communit®を運営

・データ取引周りのサービス（課題マッチング、データ加工支援）でのビジネス化を模索していく

## 【今後】

- ▶ モビリティデータの活用はグローバルに注目されており、EUではNAP (National Access Point)というMD communit®と同じ機能をもつ、サイトにデータ登録を義務付け
- ▶ 次期SIP「スマートモビリティプラットフォームの構築」をはじめ、関係各省とも連携して、MD communit®の普及展開を目指す。